

提案主題 特色ある学校教育を生かした学校づくりのブラッシュアップに関わる教頭の役割

協議の柱

- ・組織的に徹底する取り組み、若手育成の取り組みをどう行っているか。
- ・学校の強みをどうブラッシュアップしているか。

提言者 日田市立咸宜小学校 島 邦彦

1 質 疑

- (1) Q 教職員の共通理解を図るうえで、教頭としてどのような取り組みを行っているのか？
A 運営委員会でミドルリーダーと共通理解を図り職員会議で場で全職員との情報共有、共通理解を行う。また、職員とよく話すことを大事にしている。
- (2) Q 「治めて後学ばせる」という教育理念は、どのような形で教育課程に書き込まれ、修正されているのか。教育課程管理は、どのようになされているのか。
A 「淡窓教学」という形で道徳の中に、「指導にあたっての共通理解」という形で生活指導の中に位置づけ、学校評価等を参考にしながら運営委員会で修正を行っている。
- (3) Q 教育目標と教育理念の関係は？教育目標が大きく変えられない印象を受けるが。
A 教育目標は大きくは変わらないが、今の時代にあった指導を行うように努力している。
- (4) Q 「淡窓教学」という理念を地域や保護者はどう受け止めているか。
A 厳しすぎるという意見もあるが、ほとんどの保護者、地域の方は、理解し協力していただいている。また、中学校区の連携も十分にできている。

2 協 議

- (1) 若い教職員の育成、年配の教職員が意識改革を図るためには職員全体で目標をはっきりさせ目的意識を高めることが大切であり、そのまとめ役を教頭が担う必要がある。
- (2) 職場の中でお互いに学びあう場を意図的に作っていくことが必要。また、地域の力を取り入れる工夫を積極的に行うことが、学校の強みをブラッシュアップすることにつながる。
- (3) 若手育成は、分掌をベテランと組ませ、若い人に昨年とは違う取り組みをたくさん提案してもらうことで組織の活性化を図ることができる。

3 指導助言

- (1) 学校の取組を発展させるためには、子どもたち自身の成長を意図的に実感させ、教職員もその成長を認めつつ、次の取組への意欲化につなげさせることが大切である。
- (2) 各校における学校の特色づくりについては、その目的や取組の実際など、年度当初に校長としっかり連携し、全教職員と十分時間をかけて共通理解することが重要である。
- (3) 若手教員の育成については、分掌等で場を与えることが大切。トップダウン的なリーダーシップも時には必要であるが、基本は支援型リーダーシップをとると良い。
- (4) 各種提案を行う際には、現状維持、前例踏襲を認めてはいけない。改善が不可欠である。
- (5) 特色ある学校づくりのため、いかに校長の学校経営方針を具現化するかが大事である。
教頭の役割として次の3つの視点から具体化を検討する。①地域の特性や資源を生かす特色づくりの視点 ②課題解決を図る特色づくりの視点 ③弱点を補う特色づくりの視点